

西尾市
学生議会

令和2年12月21日 午後1時30分から午後2時30分まで

平坂中学校 集会室

総合政策部長／高原 浩

皆さん、こんにちは。それでは、予定の時間となりましたので、ただいまから学生議会を開催いたします。

私は、進行を務めさせていただきます総合政策部長の高原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

では初めに、市からの出席者を紹介いたします。

初めに、兼子校長の右隣は中村市長です。そのお隣が近藤副市長です。関係部局といたしまして小林市民部長です。築瀬健康福祉部長です。吉田建設部次長です。そして、この学生議会を担当しております秘書広報広聴課の犬塚課長です。高須課長補佐です。福井主任主査です。総勢9人でお邪魔をしております。どうぞよろしくようお願いいたします。

本日は、貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。この学生議会は、西尾市の将来を担う若い世代の皆さんから、まちづくりに関するご意見やご提案などをお聞きし、未来に夢や希望が持てるワクワクする西尾市の実現に向けて参考にさせていただくとともに、皆さん方には市政に対する関心や理解を深めて、共に考えていただくことを目的に開催をするものでございます。

開会の前に、本日お配りをしました4種類のパンフレットがあると思いますけれども、こちらの説明をさせていただきます。

1つ目は表紙に「24 にしおじかん」とあるもの、2つ目は「ムゲンのミライ」、3つ目は「ローカル就活ガイドブック～ローカルではたらこう～」、最後、4つ目は「頑張るものづくり企業 in 西尾」の4種類です。

私たちが暮らす西尾市は、年間を通じて比較的温暖な気候で、土地の価格も近隣市と比べて安く、生活をするには大変恵まれた地域であります。また、子育てや教育環境からも、若い世代の人たちから「日々の暮らしを楽しみながら子育てができる環境である」というご意見もお聞きしております。

また、産業面においては、県内有数のものづくりの集積地となっており、将来性のある企業や高い技術力を有するものづくり企業が多くありまして、雇用の面においても比較的安定しています。

皆さんは卒業後、進学などで一時的に西尾市から離れる人もいるかもしれませんが、将来はぜひ、この西尾市に戻ってきていただきたいと思っております。

お配りしたパンフレットは、西尾市の魅力を紹介するものでありますので、またお家へ帰ってからゆっくりご覧になってください。

なお、本日は、記録用として写真撮影と録音をさせていただいておりますのでご了承ください。

それでは、開会に当たりまして、中村市長からご挨拶を申し上げます。

市長／中村 健

皆さん、こんにちは。西尾市長の中村健です。

今日は学生議会に参加していただきまして、本当にありがとうございます。

今年は皆さんの学校生活においても新型コロナウイルスの対応ということで、いつもとは違う生活を強いられていると思います。給食も多分、普段ならおしゃべりをしながら

楽しく食事をしていたと思いますが、前を向いて食べたりだとか、あるいは学校行事も幾つか中止になってしまったこともあるかと思います。ただ、皆さんにとって、この1年間はかけがえのない生活ですので、なるべくしっかり思い出をつくってほしいと思い、修学旅行は時期がずれても、どこかには行けるようにしてほしいという願いをしていましたし、学校の給食もおかずがいつもより豪華な時もあったと思います。こういうコロナの状況ですけれども、皆さんが学校生活を楽しめるようにしていきたいと思います。

それと、今回学生議会をなぜ開催するかということですがけれども、皆さんはまだ選挙権がないし、選挙に出ることも年齢的にできないですね。だけど皆さんも、ちゃんと西尾市に住んでもらっていて、西尾市がこういうまちになったらいいなという考えを持っていると思います。ただ、それを僕たち行政や政治という立場の人たちに、なかなか自分の考えを届ける機会はないのではと思っています。ですが、若い人たちの意見はすごく大事で、20年、30年すれば、皆さんが社会の一番中心になる存在ですので、今のうちから意見を聞いて、なるべくそうした思いが実現できるようなまちにしていくと、皆さんが大人になっても、「ああ、西尾市に住んでいたいな」というように思ってもらえると思いますし、若い意見を取り入れていくことが、まち全体の活気にもつながるので、そういう意味で毎年何校か選んで、出張という形で学生議会をやっています。

皆さん緊張しているかもしれませんが、若者は元気よく、はつらつとやってもらいたいと思いますので、なるべくリラックスして、元気に意見をぶつけてほしいと思います。よろしくお願いします。

総合政策部長／高原 浩

本日の学生議会は1時間を予定しております。皆さん方からいただいたご意見やご提案等に対しては、市長あるいは担当部長からお答えをさせていただきます。発言は座ったままで結構です。机の上にお茶が置いてありますので、飲みながらリラックスしてお話ししていただければと思います。

それでは、これより進めてまいります。

初めに、トップバッター、提案シートの1番であります。大西さん、新實さん、志賀さん、森さんの4名です。よろしくお願いします。

1番／大西健太郎、新實天晴、志賀美優、森 有希

3年生の大西健太郎と新實天晴と志賀美優と森有希が提案と質問をします。よろしくお願いします。

それでは、提案シートに従い説明します。

僕たちは、「交通事故減少を目指して」というテーマで、愛知県や西尾市の交通事故について発表させていただきます。

まず、現状や課題について発表します。こちらの表を見てください。これは2019年全国交通事故発生件数についての表です。愛知県は大阪府に続いて2番目に多いことがわかります。こちらを見てください。これは令和元年度自転車乗用中の交通事故死傷者数のグラフです。西尾市は自転車乗用中の交通事故死傷者数を事故が発生した場所の自治体の人口1万人当たりで算出した人数が7.12人と多いです。このことから愛知県は交通事故が多

く、西尾市は自転車乗用中に大きな事故につながることが多いことがわかります。

続いてこちらを見てください。令和4年（2022年）までの交通事故発生件数の目標値が4,600件であるのに対し、平成28年（2016年）の段階では5,279件と679件も多いことがわかります。このことから西尾市全体で交通事故に対する意識を高めることが求められます。実際に平坂中学校でも、3カ月ほど前まで事故が多発していました。また、僕も登校中、危ないなと思うことがたくさんあります。特に、ファミリーマートと焼肉屋たけやの交差点は車の通りが多く生徒もたくさん通ります。しかし、交差点を南に行く道路が開通していません。ここが開通すれば渋滞は減り、交通事故も減ると思います。このほかにも建設途中の道路はたくさんあります。この写真を見てください。これは矢田小学校の生徒の通学の様子です。矢田小学校は児童数が1,000人を超え、非常に多くの生徒が通学時間帯に移動するのに対し道が狭いことがわかります。また、危険な状態が日常化し、当たり前になってしまうと児童の交通安全に対する意識が下がり、交通事故が起こる危険性が高まります。道路を広くすることや歩道橋をつくることとともに、児童の交通に対する意識を高めることが求められます。

そこで、交通事故減少を目指すための解決策を大きく分けて4つ提案したいと思います。1つ目は、開通工事の完成です。この画像を見てください。この道、田貫徳永線は現在使用することができないようになっています。そして矢田小学校の校長先生へのインタビューからも、「早くこの道を開通させてほしい」という声を聞きました。開通工事の早期完了をお願いしたいと思います。

2つ目は、歩行者専用道路と歩道橋の建設です。現在、歩行者専用道路は非常に少ないです。そこで、私たちを含め登下校をする小学生や散歩をするお年寄りのために、そして西尾市の交通事故減少を目指すために、歩行者専用道路と歩道橋の建設は必要なことだと思います。

3つ目は、交通安全教室の実施です。これまでの交通安全教室とは違い、中学生が発表をしたりして、現在の西尾市の交通事故をよりたくさんの人に知ってもらい、一人一人の意識を高める場とします。

4つ目は、これらを行うためのボランティアの募集です。開通工事の完成、歩行者専用道路や歩道橋の建設、交通安全教室の実施には人が必要です。そこでボランティアを行ってくれる人を募集します。

解決策を行う上での効果は、田貫徳永線が開通することで、車が抜け道として利用し、その道路の渋滞を減らすことができます。しかし、そこは子供の通学路でもあるので、そのことを利用する人が理解し、事故減少を目指してほしいです。

次に、道路の開通と歩行者専用道路や歩道橋の建設により、道路が前より広くなり、自動車と歩行者の直接事故を防いで、多くの人が一斉に行き交うことができます。また、自動車、歩行者を心配せず移動ができるので、今よりもスムーズに進むことができるのではと思います。また、狭い道路で起こっていた渋滞を減らすことができ、人通りが多くなり、まちの活性化にもつながればよいと思っています。

次に、交通安全教室を年に数回、警察の人に開いてもらうだけでは少ないと思います。そこで児童や地域の人々に対し、中学生が実演したり、発表をしたりする交通安全教室を定期的に行えば、児童の意識も向上し、地域の人とのつながりも強くなると思います。

最後に道路の開通が遅れている場所への地域ボランティアの募集をします。実際に自分たちの関わりが深い地域の道路のために体を動かすことで、地域のまちづくりに関心を持ってもらいます。さらにたくさんの方が参加することで、道路を早めに完成させることができます。これもまた、自動車の通りが安全でスムーズになり、効果があると思います。

問題点として、児童生徒の意識を変え、歩行者専用道路を設置するためには、道路などの開通のための財源と地域の人の協力が必要です。ボランティア募集が難しく、住民の反対があれば、歩行者専用道路の設置もできなくなります。特に児童生徒は狭い道でも大体四、五列で歩いているところを、車がぶつかりそうになるところを私は見たことがあります。一人一人の意識を高め、10年後などの未来を考え、交通環境を整備していくことが必要だと思います。そこで質問をします。

田貫徳永線の敷設工事を私たちは身近に生活していて見えています。なかなか道路が開通しないので、道路をつくるにはすごく時間がかかるなと感じています。田貫徳永線の道路通すのに時間がかかるのはなぜですか。提案した内容についての考えを含めてご意見を聞かせてください。

以上で提案説明、質問を終わります。

総合政策部長／高原 浩

どうもありがとうございました。発言が終わりました。それでは市長のほうからお答えをさせていただきます。

市長／中村 健

提案と質問をどうもありがとうございます。いろいろな統計資料を見て勉強したり、あと矢田小学校の高木先生まで取材に行かれたりということで、提案と質問を聞いたのは僕としてはすごくうれしいです。

まず、お答えですけれども、田貫徳永線については、皆さんにはご迷惑をおかけしましたけれども、今年度中に何とか開通できる予定です。

何で時間がかかったのかということですが、大きく2点ありまして、1つはお金の問題です。道路をつくるのも長さなどにもよりますが、何千万円とか何億円かかることも珍しくなくて、西尾市でも道路を整備していくに当たって、西尾市の予算と、後は国から補助金などのお金をもらいながらやっているの、なるべく早くやりたいとは思っているのですが、現実的に使えるお金の量もあるので、そういった中で時間がかかりがちだということが1つです。あと道路をつくっていくということは、それまで道路ではなかった土地があります。その土地を持っている人に対して、「道路をつくりたいので土地を売ってくれませんか」という交渉をやっていきます。その土地というのは、田んぼだったりすることもあるれば、自分の家が建っているところの場合もあって、市全体としては、そこに道路ができることは大事なのですが、住んでいる人とか土地を持っている人からすると、必ずしもそれを希望しているとも限らないので、そうすると粘り強く何とか道路のためにお願いしますということをお願いしていくのですが、実際に「わかりました」と全員が言ってくれるまでに時間がかかってしまうこともあるというのが正直なところです。

あと、皆さんが提案してくれたことですが、交通事故をなくすためにどうすればいいのかということで、一般的に、ハード面とソフト面という言い方をするのですが、ハード面というのは、2つ目の提案の、例えば歩道だとか歩道橋の建設というところになります。皆さんは町内会って聞いたことがありますか。西尾市では、町内会長さんから、例えば、ここは通学路になっているけれども車の通りが多いとか、歩道がないからつくってもらえないかという要望を聞いて対応しています。ですので学校からもご意見を聞いていると思うのですが、町内会さんが皆さんが通学している姿を見ていて、子供たちが事故に遭わないためにということで、いろいろな要望をいただいています。先ほども言いましたが、使えるお金に限りがあるので、優先順位をつけながら対応をしています。先ほど提案いただいた場所が、何年後にできるかというのは、この場でわからないですけど、そういう優先順位をつけていって、一番危ないところから順番に歩道だとか歩道橋はつくっていきたいと考えています。

もう1個のソフト面というのが、皆さんが3番目とか4番目に言ってくれたことになります。交通安全教室については本当に提案してくれたとおりであります。我々市役所とか警察署がやるのに加えて、中学生の皆さんが率先して自発的にやってくれると、地域の皆さんに関心を持ってもらえるし、ぜひ学校でそういったことをやれる時間があるのであればやってほしいと思います。

最後にボランティアの募集については、固いことを言いますと、道路をつくるのは資格がないとできないことがあるようで、なかなかつくること自体にボランティアというのは難しいのですが、ただ、道路ができた後でも草が生えたりだとか、ごみが落ちていたりとかすると、それはそれで安全面において問題があるので、例えば、そういった清掃活動とかにボランティアでやってくれると非常にありがたいと思います。

以上です。

1番／大西健太郎、新實天晴、志賀美優、森 有希

僕たちの提案を参考にさせていただけることをうれしく思います。ありがとうございました。

総合政策部長／高原 浩

ありがとうございました。では続きまして、提案シートの2番目です。小林さん、高須さん、鳥居さん、宮地さん、よろしく申し上げます。

2番／小林遙人、高須敦史、鳥居明日望、宮地琴菜

3年生の小林遙人と高須敦史と鳥居明日望と宮地琴菜が提案と質問をします。よろしく申し上げます。

自分たちの提案のテーマは「西尾が世界との架け橋となるために」です。

突然ですが、ここでクイズです。現在、西尾市には何カ国の外国の方が在住しているのでしょうか。チクタクチクタク、それでは市長、1番から3番で何だと思いませんか。

市長／中村 健

結構難しいですね。2番。

2番／小林遙人、高須敦史、鳥居明日望、宮地琴菜

2番の31カ国。正解は3の45カ国でした。ここから見ると本当に西尾市にはたくさんの外国の方が住んでいることがわかります。続いて、こちらの資料を見てください。西三河統計研究協議会の資料となっています。ここの総数のところを確認してもらえるとわかるのですが、西尾市は豊田市、岡崎市に次いで3番目に外国の方が多いいことがわかります。ここから見ても本当に愛知県の中でもトップクラスに外国の方が多いいことがわかります。

そこで、僕たちが今よりも素敵な市をつくるために考えのが、西尾市共生プロジェクトです。

外国の方との共生をかなえるためには、現在の課題を解決していくことが大切です。その課題とは、外国人への固まったイメージ、外国人に対する社会環境の不十分さ、言語の壁、互いの文化の知識不足が挙げられます。そのほかにもたくさんの課題が考えられますが、今回はこの4つについて話していきたいと思います。

これらの課題を解決するために、私たちは翻訳ロボットの導入、多文化共生施設の建設、公共施設の看板や案内板の表記の改正の3つを提案します。

まず、1の翻訳ロボットの導入についてです。私たちは公共施設や街中にこのような翻訳ロボットを導入することを提案します。翻訳ロボットが身近にすることで、今までよりも気軽に外国の方に話しかけることが可能となり、日本人と外国人がコミュニケーションをとるための良いきっかけとなると思います。その結果、言語の壁をなくすことができます。

次に、多文化共生施設の建設について提案します。これは単なる国際交流センターではなく、「どこの国の人でも何歳でも誰とでも」交流ができる施設です。まちを歩いていると外国人は外国人、日本人は日本人同士で集まっており、集まる場所にも偏りがあります。普段、生活をしている中では当たり前だと思うかもしれませんが、よく考えてみると、これは共生とは言えないと思います。

そこで、私たちが理想とする多文化共生施設について説明しようと思います。この施設では、「日本と母国との違いによるストレスを軽減させること」を目標にします。施設の中には多くの人が入りやすい雰囲気のエントランスをはじめ、多くの人と交流ができる大講堂やストレスを発散するために体を動かすことができる体育館、母国の味を思い出すことができる様々な食材を取り揃えた食堂、バーベキュー広場、また世界の文化を知ることができる世界文化博物館などを設けたいです。

また、先ほど紹介した翻訳ロボットや通訳さんをスタッフとして、伝統的なスポーツや食文化などをその国の人から直接教えてもらいます。そうすることで外国人への固まったイメージと互いの文化の知識不足をなくすことができます。

最後に3番の公共施設の看板や案内板の表記の改正について提案します。

これは案内板や看板の表記を多言語にするというものです。既に取り入れられているところもありますが、公園やバスなどでまだまだ表記が行き届いていないと感じるところが多くあります。そのようなところも徹底的に改善していくことで、みんなが住みやすい

地域をつくることができます。これによって外国人に対する社会環境の不十分さを解決することができます。

今僕たちが提案した3つのことを改善していけば、今の自分たちの暮らしは絶対によりよくなっていくと思います。あと、「西尾は外国との交流が盛んだよね」と国内外からも注目を浴びることになります。そうすることで今の西尾市よりも、もっと潤い、活気のあるすばらしい西尾市を誕生させることができると思いました。

そこで1つ質問をします。現在の西尾市に在住している外国人の人数は周辺の市に比べて多いです。共生に向けてベトナム語及びポルトガル語の相談員の配置、翻訳機器及びテレビ電話通訳システムを導入し共生に向けて活動していると思います。その活動は西尾市に適した政策を行えていると思いますか。ゼロから10までで表したとき、どのぐらいできていると思いますか。提案した内容についての考えも含めて、ご意見を聞かせてください。

以上で提案の説明、質問を終わります。

総合政策部長／高原 浩

ありがとうございました。

それでは、市長、お願いします。

市長／中村 健

提案、質問ありがとうございます。

皆さんが質問してくれたテーマが、我々の世界で多文化共生というテーマになるのですけれども、これは西尾市において本当に大きな課題だと思っています。点数をつけると10点と言いたいのですけれども、7点ぐらいかなというのが正直なところで、まだまだ100点満点、10点満点ではないけれども、ただ、ほかの市と比べた場合に結構頑張っているというように自分で思っています。今西尾市の人口が17万2,000人ぐらいですが、先ほどの資料に出てきましたが、外国人の方が大体1万人ちょうどぐらいで、ブラジルが一番多くて、最近ではベトナムとかフィリピンの人が増えています。いろいろな事情があって、日本とか西尾市に来ていると思うのですけれども、西尾市で生活してもらっている以上は、国籍に関係なく過ごしやすいまちだと思ってもらいたいというのが本音です。まだまだそれが全部できているとは言わないのですけれども、外国人の問題は日本人の問題でもあるので、今、多文化共生プランという、要は西尾市でそうした外国人の方々にどうやったら快適に過ごしてもらえるかというプランをつくっているところです。それに当たって、日本人側の意見だけではなくて、実際に住んでいる外国人の方にも意見を聞きながら、どういうところに困っていて、どうしてほしいかということのを両方に聞いて、西尾市としてこういうことをやっていきたいと思いますというのを、本年度と来年度で作成をしていきたいと思っています。その中で、今いただいた意見なども、できる限り反映していきたいと思っています。

まず、翻訳ロボット、確かにロボットのほうが話しかけやすいと思うので、ロボットを導入するのも1つのやり方だと思うのですけれども、現実としてはポケットクという携帯型の翻訳機を西尾市役所の中で持っていたりだとか、町内会さんが外国人の方とコミュニケーションができなくて困っているというときに貸出しをしたりしています。今後そう

いった声は大きくなっていくと思うので、ポケトークをもっと買うとか、施設に置くのであれば、そういったロボットを置くということも大事だと思います。

多文化共生施設については、今後、西尾市の中で何か大きな施設をつくっていくときには考えたいと思うのですが、すぐにつくれるかという点も難しいと思います。ただ、総合福祉センターはわかりますか。花ノ木町の辺に福祉センターというところがあって、その中に国際交流協会という団体さんがいます。そこでは、自分で勉強して資格を取ったりして、日本人の方がボランティアで日本語の教室をやっています。日本語を習いたい外国人の方が教室に来るんですが、日本語が話せるレベルによって何段階かあるのですが、先ほど言ったみたいにブラジルとかベトナムとかフィリピンとかいろいろな外国人の方が来ますので、例えば、皆さんがそういうところに興味を持ってもらって、国際交流協会の中でボランティアをやってもらおうなど、できることはいろいろあると思います。ただ、国際交流協会さんだけではないのですが、多文化共生のイベントを1年を通じて何回かやっていますので、そういうところへ参加してもらって、コミュニケーションをとってもらおうということも大事だと思います。

外国人の方がどういう思いを持って西尾市で過ごしているかわからないけれども、ひょっとしたら孤独な人も少なくないのではというときに、日本人の西尾の人が積極的に話しかけてくれると、逆の立場だったらすごくうれしいと思います。そういったところからまず始めて、国籍に関係なく仲良くなれるようなまちづくりをしていきたいと思っています。

あと、看板についても、新しく看板をつくる時は、当然日本人だけが見るものではないので、何か国語を載せるかというのは問題がありますが、ポルトガル語とかベトナム語というのは人数も多いので、なるべく日本語以外の表記もやっていけるようにしたいと思っていますので、その辺は取り入れさせてもらいたいと思います。

ぜひ皆さん、提案してくれたのを機に、さっき言ったみたいな国際交流的なイベントに積極的に参加してほしいと思います。どうもありがとうございます。

2番／小林遙人、高須敦史、鳥居明日望、宮地琴菜

自分たちの提案を参考にさせていただけることをうれしく思います。ありがとうございました。

総合政策部長／高原 浩

ありがとうございました。それでは、提案シートの3番目です。中根さん、牧野さん、加藤さん、村松さん、よろしくお願ひします。

3番／中根俊郎、牧野廉斗、加藤理聖、村松優花

3年生の中根俊郎と牧野廉斗と加藤理聖と村松優花が提案と質問をします。よろしくお願ひします。

それでは、提案シートに従い説明します。

皆さんは、高齢者についてどのようなイメージを持っていますか。このように良いイメージは少ないかもしれません。ですが、高齢者の方々がいなければ、私たちの西尾は伝統も文化も何もない退屈にまちなってしまうでしょう。皆さんも高齢者の方々と交流を

したほうが良いと思いますよね。ということで、私たちの班では西尾市の高齢者と若者について発表します。

西尾市では現在、高齢者の数が増加し、若者の数が減少する少子高齢化が進んでいます。だからこそ、伝統的な文化の伝承は必要です。ですが、吉良の赤馬や茶道、漁業や農業など、本来ある伝統文化が失われているのが現状です。このことから、西尾市の文化に興味を持つ若者が少ないことがわかります。文化を伝承する機会が減っていることが課題として考えられます。

このままでは西尾市は退屈なまちになってしまいます。危機感を持たなければいけません。そのために私たちの班では、西尾市の文化を未来につなげていくため、西尾市を私たちの手で存続していくための取組を提案します。

場所は市内のふれあいセンターや平坂地区にある勤労会館を利用します。まず、最初に参加している人全員がお互いに話をしてもらい、その中から1人を選んでもらうという、高齢者と若者のマッチングを行います。

具体的には、お題を決めて、それについて3分間自分が思うことを話し合ってもらいます。短い時間ですが、だからこそお互いのことが見えてくると思います。

話す方法は、高齢者と若者が向かい合い輪になって座ってもらいます。3分間が終了したら若者が隣の椅子に移り、その人と話し合ってもらいます。これを繰り返し全員と話し合えたら、いよいよペア決めに入ります。話したときの印象をもとに若者が高齢者を選びます。座っている高齢者の前に若者が立ち思いを伝えてもらいます。そして高齢者がオーケーを出し、マッチング完了となります。ペアの人が決まったら、高齢者から若者への文化の伝承を行ってもらいます。内容はペアによって自由です。それぞれの得意分野で教えてもらったことを、ほかのペアとも交流して伝承の輪を広げていきたいです。

さらに若者から高齢者へスマートフォンやパソコンの使い方、現代社会や今と昔の学校や遊び方などの違いを教える時間も考えています。

最後には、一緒にかわいい小物作りや昔の遊び方だったりを実践してもらいます。聞くだけでなく、教える、そして一緒に何かにチャレンジすること、それが実現すれば喜び、そして自信にもつながります。実際に私は職場体験で、高齢者の方々が入院する病院に行きました。高齢者の方々が私たちを見るたびに顔の緊張がほぐれて笑顔になっていたことがとても印象深かったです。

このことから、高齢者にとって私たち若者の存在はパワーの源の1つだと思いました。私たちにとっても人生の先輩と交流できるのはとても勉強になります。

問題点としては、今の社会情勢を考えてコロナウイルス感染の防止や、広い場所の確保、人員の確保が挙げられます。

この改善案として、マスクの着用、消毒、呼びかけなどを考えています。あらかじめ予約して広い場所を確保し、密を避けることも考えています。

どうでしたか。この行動を行うことで日本全国を出し抜いて、少子高齢化社会に適応し、少子高齢化、文化の伝承という危機すらも楽しみながら解決しよう、もっと西尾の文化の輪を広げていこうと思いを込めました。一緒にこの輪を広げていきませんか。

そこで質問します。シルバー元気教室や地域高齢者の交流の場をつくっていると思いますが、これらの活動に私たち中学生が参加することについて、どのようにお考えですか。

また、高齢者と中学生が関われる活動は現在行われていますか。提案した内容についての考えも含めてご意見を聞かせてください。

以上で、提案の説明、質問を終わります。

総合政策部長／高原 浩

ありがとうございました。市長、お願いします。

市長／中村 健

ありがとうございます。皆さん、成人していないというので子供という言い方をさせてもらいますけれども、子供が健やかに楽しく元気に毎日生活してほしいと思う大人はすごく多いです。そうした皆さんのような子供の立場で自分の年と離れた人たちと積極的に交流したいという話をしてくれたのが、僕は非常にうれしいし、きっとおじいちゃん、おばあちゃんの高齢者の方々も、この話を聞くと、すごく喜ぶのではないかと思います。

具体的にそういった交流をしようとした場合には、学校とか、例えばクラスなどで、シルバー元気教室や西尾市の行事の場で交流をしたいということであれば、こちらにいる築瀬部長に相談してもらえればと思います。お年寄りの方々が集まる場合は、ほかにもいろいろあって、老人ホームだったりとか、あるいはふれあいセンターの中の講座で集まったりというのがあるので、どういう場でもいいので交流の機会を持ちたいということ、学校とかクラスから持ちかけてもらえれば、多分好意的に受け止めてもらえるのではないかと思います。

先ほど、発表の中でもありましたが、僕が実際におじいちゃん、おばあちゃんと話をしている、子供たちと話をすることで「すごく元気をもらえる」とか、「今日一日よかったわ」などと言う人が多いので、実は皆さん、自分が思っている以上に周りの人たちに元気とかエネルギーを与えられるんだというところは、自信を持ってほしいと思います。ですので、具体的にどういう交流の形にすればいいかというのは、話をもらった段階で決めていけばいいと思います。先程言ってくれたマッチングとか、そういったのも1つのやり方だと思うのですが、どういった場所でどれぐらいの時間があって、どういう目的で交流するかというのは、話し合っていく中でやり方は決まっていくと思うので、余り固く考えずに、気軽にそういった声を届けてもらえればうれしいと思います。ありがとうございました。

3番／中根俊郎、牧野廉斗、加藤理聖、村松優花

僕たちの提案を参考にさせていただけることをうれしく思います。ありがとうございました。

以上で提案、質問を終わります。

総合政策部長／高原 浩

どうもありがとうございました。

以上で予定をしておりました提案、質問の時間は終了させていただきます。提案していただいた皆さん、どうもありがとうございました。

それでは時間がまだ少しありますので、フリートークの時間にさせていただきます。
では市長、よろしくをお願いします。

市長／中村 健

まだ若干時間がありますし、少し延長しても大丈夫なので、まじめな話でも、まじめでない話でも、遠慮なく何か質問や意見があれば積極的に手を挙げて聞いてください。

生徒

中村健市長は、どうして市長になろうと思ったのですか。

市長／中村 健

僕はもともと西尾市の職員だったんですが、どういう仕事をやってもやりがいがありますし、やれることと、やれないことがあると思うのですけれども、自分の中で政治の立場から、もう少し西尾市のために自分の力を使ってやりたいなと思ったのが直接的な理由です。

生徒

自分の夢を追いかけて安定しない未来か、自分の夢を諦め安定した未来をとるか、どちらが正解だと思いますか。

市長／中村 健

僕の最後の挨拶で言おうと思っていたのが、先に言われてしまいました。これは僕の考えなので、必ずしもそれが正解だというつもりもなく、違う考え方もありますが、僕は、皆さんには、まず自分の夢と呼べるものを見つけてほしいと思います。その夢というものが見つかったら、夢というのは楽しんでなりたいたかではなくて、本当に自分が何が何でもこれがやりたいんだというものを見つけてほしいと思います。それが見つければ、いろいろな人の意見は聞いてほしいけれども、「難しいからやめておきなよ」と言われて「じゃあ、やめよう」というのではなくて、その実現に向けて全力を出してほしいと思います。年をとっていくと、結構人間は守りの姿勢になる人が多くて、できない理由を考えがちになります。それを10代とか20代とか若いうちから、そんな守りに入ってどうするんだと、僕は思うのです。もし実現に向けて全力でやって、それが実現できなくても、それは絶対に無駄にならなくて、皆さんの人生の中で実現できなかったかもしれないけど、あのときあれだけ頑張った良かったと絶対に思えると思うので、そこは前を向いて頑張りたいと思います。やって実現しなかった後悔よりも、やらなくて後悔することのほうが絶対に大きいと思うので、僕はそういう考えで頑張りたいと思います。

生徒

先日西尾市でタクシーの自動運転の試し走りがあったというのをニュースで見たのですが、なぜ西尾市が今回選ばれて西尾市で走るといふようになったのか教えていただきたいです。

市長／中村 健

ありがとうございます。愛知県が県内で自動運転の実験を何年か前から続けていたんですが、僕は西尾市でぜひやってほしいと思っていました。それは、先ほど3番目のグループの皆さんが、退屈なまちにならないようにと伝えてくれましたが、「西尾市で自動運転の実験をやるらしいぞ」とニュースを見た人たちにワクワクしてもらえるような話題をつくりたいと思ったからです。全国的にもかなり進んだ取組みですので、それができれば多くの人に「西尾市はおもしろいね」と思ってもらえるかなと思ひまして、愛知県にいろいろお願いをして何とか実現できたというのが正直なところですよ。

生徒

ありがとうございます。

生徒

西尾市は出生率が低くて、通常は2人以上生まないと、このまま人口を維持することができないと目にしたのですけれども、出生率が低い原因として、子育てへの関心が余りないのかなというように思います。子育てで得られることができる大事なことで僕が思ったのが、人の情、悲しいとか、楽しいとか、そういう気持ちを教えることもできるし、それを見て自分も変わることが子育ての良いところだと思っているのですが、中村市長は子育てをすることによって、どのようなことが得られて、どのような良いことがあると思われませんか。

市長／中村 健

ありがとうございます。

僕は、今3歳の男の子と1歳の男の子の2人の子供がいます。自分の経験として言わせてもらいますと、人間としての許容範囲が大きくなったというか、仕事をやっても理屈で物事を考えがちで、何でこれできないんだとか、もっとこういうふうにならないかと思ってしまうのですが、大抵が赤ちゃんの時は、そんなことを言ってもわからないですよ。赤ちゃんは、例えば自分が忙しいときにわあわあ泣いていても、「泣くな」と言っても泣くだろうし、それを放っておくわけにはいかないです。そうすると、理屈ではなくて、例えば、赤ちゃんがおしっこをして泣いているというと、助けを求めていることになりますよね。そういう理屈ではないところで、自分ではなく人のためにやらないといけないことがいろいろあるのだなというのは、すごく経験で学びました。

生徒

ありがとうございます。

生徒

市長から見て、西尾市にどんなイメージを持たれているか教えてほしいです。

市長／中村 健

ありがとうございます。

実は僕が何歳だったかによってイメージがすごく違って、僕が中学校、高校、大学ぐらいのときは、西尾市のことが実は余り好きではなくて、名古屋とか岡崎に比べて都会ではないし、遊べるところが少ないと思っていたのだけれども、今振り返ると、そのときの僕は余り西尾市のことを知らなくて、自分がたまたま目に入ったものだけで、何かつまらないと思っていました。仕事をするようになって、西尾市の人といろいろお付き合いもできて、いろいろなことを知ると、ここでこんなに頑張っている人がいるんだとか、こんな良い場所があるんだというのを知ることができて、今の僕は西尾市はすごく魅力的だと思っています。確かに名古屋まで行くのに時間がかかるとか、そういうのはありますが、自然は豊かだし、人は優しいし、頑張っている人もたくさんいますし、おいしいカフェもいっぱいあるしという意味では、自慢できるまちだと思っています。

生徒

最近、社会の授業で大きな政府と小さな政府について学んだのですがけれども、大きな政府はたくさん税金を納めてもらって、それに値する分の大きなサービスを提供するというもので、小さな政府は少額の税金を納めてもらって、それに値したサービスを提供するというものなのですがけれども、自分の意見としては、大きな政府のほうが市民とか国民としてはうれしいし、それだけのサービスを受けられるという意味では本当に良いことだと思うのですがけれども、市の政治を担当する市長さん方からしたら、大きな政府と小さな政府、どちらが市をより良くしていくと思いますか。

市長／中村 健

ありがとうございます。

非常に難しい問題で、逃げみたいな答えになりますけれども、真ん中ぐらいかなと思います。確かにいろいろな困っている人たちがいるし、いろいろなサービスをしてあげたほうが助かる人は多いのですがけれども、そういうサービスをするときに何を求めているか、何のお金でやりますか。質問がわかりにくいですかね。僕らは自分たちで稼ぐわけではないですから、そうすると市民の人から基本は税金を納めてもらって、その税金を使っているいろいろなサービスをするということになります。大きなサービスの方向に持っていくと税金が高くなりがちですよね。それは余り皆さんは喜ばないけれども、でもやったほうがいいことはたくさんあるというのと、どちらが良いかというのはすごく難しく、そういう問題があるから、中くらいとしか言いようがなかったのです。サービス面では大きいほうがいいけど、税金という意味では安いほうが市民の皆さんは喜ぶから小さいほうがよくて、そうすると真ん中ぐらいになってしまうのかなというのが正直なところでは。

生徒

ありがとうございます。

総合政策部長／高原 浩

調子が出てきたところで申し訳ないですが、予定の時間となりましたので、ここまで

とさせていただきます。ごめんなさい。

それでは、兼子校長からご講評をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

校長／兼子 明

講評ということですが、まずもって市長の中村様をはじめ、市役所の関係の皆様におかれましては、こうした貴重な学びの場を与えていただきまして本当にありがとうございます。私たちも学校として受けるときに、どういう立ち位置といいますか、スタンスで臨むかということを考えてのですが、正直なところ市長さんが見えるとか、市役所の方が見えるということで、それに向かって何かやるということよりも、ちょうど3年生の社会科で公民を学ぶこともあり、その学んだ先にたまたま良いスタンスがあるというような構えで臨ませていただきました。ですので、中身として市役所の皆様にちょうど関心等がマッチしているかどうかというのは心もとないですが、子供たちが日常の中で育ち、過ごす中で疑問に思ってきたこと、そして関心のあることを、今日このように進めさせていただいた次第でございます。

そんな面も含めて、皆さんにはこの後、ちらっと聞いていた話題を含めて、今日の感想とさせていただきます。

最初のところで、ワクワクする西尾市ということでお話がありました。みんなどうですか、ワクワクする、そんなまちに住みたいです。そのためにみんなが今日提案してくれました。私もすごく刺激をもらいました。特に思ったのは、みんなが自分たちのためだけではなくて、大人と一緒に何かこうしたらいいなという思いを正直なところで、しかも自分の言葉で話ができただけは立派だと思います。

その上で、あえて今後のことを言わせてもらいますと、途中で市長さんがハードとソフトを言われましたよね。どうしても何か考えるときに、つくってほしい、こういうものが欲しい、してほしい病というか、そんなところが出てきてしまいます。でも、そこから卒業して、いかにこうしたいとか、こうするんだというようになる。そこがやはり学校の中の生活と一緒に思うのです。良いか悪いかわかりませんが、あえて例えるなら、お客さんから主役になるということです。それがやはり私たち学校も含めてですが、これから未来を担う、みんながそういう姿勢を持ってくれることが、多分一番素晴らしいことだし、恐らくそれが市役所の皆さんの力となることだと思います。

ですので、ソフトの中で一番大事な人は人です。西尾市の中の、その中でも未来がある皆さんならどのように動くかというところを、多分一番求めています。今回、非常にお忙しい中で時間をつくっていただきました。ですのでその辺を含めて、今日の学びをここで終わりにするのではなくて、今後に活かしてもらいたいと思います。その上で、こういう場を設けてもらえる、そんなまちに住んでいるということ、ぜひ誇りに思ってください。みんなの思いが届いて、耳を傾けてもらえる、そんな人が住む西尾を、ぜひ皆さんも大事にしてもらいたいと思います。そして、その上で、やはりみんなが暮らしていく平中のために動いていってもらえば、きっといろいろなこともあるけれども、素晴らしい1年になると思うし、素晴らしい卒業式ができると思います。またみんな、一歩ずつ前に進んでいきましょう。

本当に今日は貴重な時間をありがとうございました。

総合政策部長／高原 浩

どうもありがとうございました。本日、皆さんからお聞きしたご提案などは、今後の市政運営の参考にさせていただきます。

それでは、閉会に当たりまして、市長からお礼のご挨拶を申し上げます。

市長／中村 健

今日は、3グループから発表してもらいまして、どのグループもしっかり調べ物をして、自分たちの熱い思いをそこに反映させた上で意見を言ってくれたことですか、後はフリートークの場でも、これだけ最後まで手が挙がっていたというのは今までなかなかなくて、市のことに対して関心を持ってくれていたというのが非常にわかってうれしかったです。

兼子校長先生の話にもありましたけれども、皆さんは今中学生ですので、今は自分の学業のこととか、自分の将来の進路のことについて、それをまず第一に考えてくれればいいと思うのですけれども、まちづくりをやるのは市役所の人だけではなくて、市民、一人一人が主役だと思っています。ですので、今だと、例えば何かのボランティアに参加することも、それは西尾市を盛り上げていくために自分が参加したということになります。あるいは将来的に仕事をするようになって、自分でお金を稼ぐようになると、何かそれを使ってイベントを考えてみるとか、実はやれることはいっぱいあります。今日は市役所の人とか、市長に対して、「これをやったらどうですか」とか、「これをやってください」という場なので、それでいいのですけれども、お客さんのようにお願いだけしていると、きっと西尾市がそこまで良くなれないと思います。一人一人が自分が何ができるのだろうかというのを考えて行動してくれる人が1人でも増えると、きっと今よりもっともっと楽しい、ワクワクするまちになると思いますので、今日の学生議会が良かったなと思ってくれたら、それを刺激にして、これから皆さんが高校、大学などの進路を進む中で、自分がお客様ではなくて、自分に何ができるかということを考えながら成長していってほしいというように思います。

今日は本当にどうもありがとうございました。

総合政策部長／高原 浩

皆さん、どうもありがとうございました。

それでは以上をもちまして、平坂中学校の学生議会を閉会いたします。お疲れさまでした。

閉会